



medical staff

耳鼻咽喉科医師、歯科医師、摂食嚥下認定看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士からなるチームです

「摂食嚥下障害」って 知っちよる？

食べ物を飲み込む時にのどに引っかかったり、食べる時に咳が出たり、飲み物を飲み込む時にむせたりしたことはないでしょうか。そういった経験がしばしばある場合、摂食嚥下障害の可能性があるかもしれません。

「摂食嚥下」とは、食べ物を認識して口の中に取り入れ、嚥んで、飲み込むという一連の動作を指します。このいずれかの過程において何らかの障害が起きた状態を「摂食嚥下障害」といいます。摂食嚥下障害が起きる要因は、加齢や脳卒中、手術、放射線治療など多くあります。治療には適切なリハビリをはじめ、症状に合わせた食事形態や栄養指導が欠かせません。

本院には、入院患者さんを対象とした摂食嚥下専門のチームがあります。2009年4月に発足し、耳鼻咽喉科医、歯科口腔外科医、摂食嚥下認定看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士の多職種で構成しています。各診療科の主治医より依頼を受けて、回診をはじめ、さまざまな嚥下治療を行っています。

《介入の流れ》

主治医より、チームに介入依頼

①初期評価

嚥下内視鏡検査

準備期・口腔期評価・口腔ケア

嚥下スクリーニング・簡単な嚥下指導

摂食嚥下リハビリ開始

栄養アセスメント

②③④を繰り返し
実施します

②嚥下カンファレンス(週一回)

問題点・方針・目標の確認

③嚥下回診(週一回)

嚥下内視鏡検査 (VE)

嚥下造影 (VF)

④チームからの提案

適切な食事形態・リハビリ・栄養指導

チームでは週1回の嚥下回診や嚥下カンファレンスをはじめ、リハビリ、適切な食事形態、栄養指導などを行っています



嚥下カンファレンス

ある日の夕食例



特軟菜食

咀嚼はできるが、食べ物を噛み切る力が弱い患者さん用



刻みあんかけ食

嚥下機能が落ちており、数回の咀嚼で飲み込んでしまう患者さん用



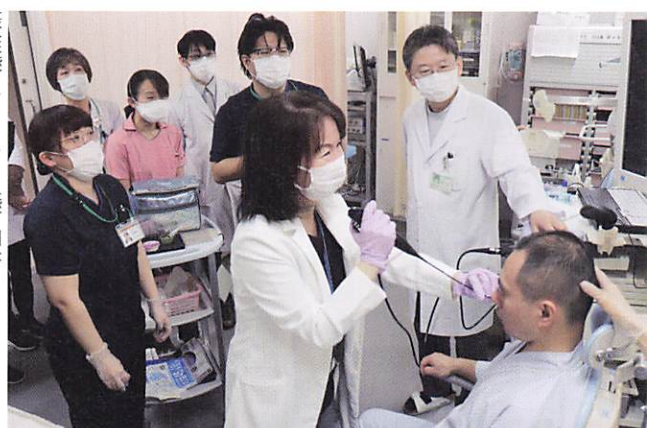
ペースト食

咀嚼が難しく、飲み込むことのみが可能な患者さん用

だんだん軟らかくなる

緑茶ゼリー

摂食嚥下チームによる嚥下回診

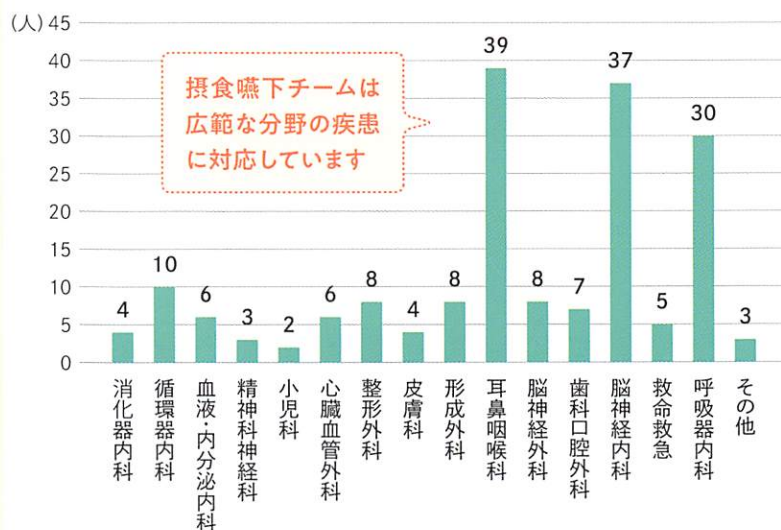


嚥下カンファレンスや嚥下回診の結果により適切な食事形態を提案しています。患者さんの嚥下機能の状態によって、同じメニューでも食事の形態を変えたり、使う食材を変えたりしています。



嚥下リハビリの様子

2024年1月～12月の介入実績



摂食嚥下チームは
広範な分野の疾患
に対応しています

食事の調整やリハビリを継続しても改善しない場合には、手術を行うことがあります。

嚥下機能改善手術

のどを嚥下しやすい形状にする手術です。
(輪状咽頭筋切断術、喉頭挙上術)

誤嚥防止術

気道を分離し、誤嚥を完全に防止する手術です。
(喉頭閉鎖術、喉頭中央部切除術)

お問合せは

お気軽に

入院患者さんで嚥下機能の低下を感じている方が
おられましたら、お気軽に主治医までご相談ください。
医療スタッフからのお問い合わせ・ご相談はこちらまで

耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来
TEL 0836-22-2520

歯科口腔外科外来
TEL 0836-22-2530